

# 私の子供の字を覺えた話

東京女高師訓導 山 形 寛

◇ 私の子供は満六歳と七ヶ月になる。この四月には小學校へ入學する筈になつて居るが、この子供が何時とはなしに文字一つづゝ覺えて行つて今では片假名は全部讀むことが出來、平假名は約半分を讀み、漢字は十字位が讀めるやうになり、片假名は殆ど全部書けるやうになつてゐる。その文字に對する知識が漸次出來かけて來た經過の概要を書いて見やうと思ふ。然し私は元來文字に對する知識も少く、又それに對する興味もあまり持つて居ないのであるから、經過に對する觀察も極めて杜撰なものであらうけれども、それを詳しく書くことがこの稿を書いた目的ではなくこの事實によつて種々考へさせられたことがあつたから茲に之を書いたのである。

私の子供の字を覺えた話

◇ 私の學校では初めて尋常一年が入學して來た時には、各兒童の文字に對する知識の程度、數觀念發達の程度其他造形的表現力の發達程度等を調査するのであるが、その調査の結果大多數の兒童は多少の差こそあれ何れも若干の文字を讀み得又書き得るものであるが、それ等文字を覺えた兒童が、何によつて文字を覺えたかを調査して見た所が、一番多いのは積木の立方體又は板に片假名と平假名とを書いてあるものに就て一つづゝ覺えて行つたと云ふものが多かつた。この事實を見た私は三年程も前に何かのついでに二寸角位の平板の一方には片假名を一方には平假名を燒繪で書き字によつて赤や黄や青や緑のエナメルで塗つてあるものを買つて來て與へて居つた。そして私はそんなものを與

へたことも忘れて居り、又別に文字を教へやうとか覚えさせやうとか考へたことも無く、又他の家族もさう云ふことに對して積極的に何等のこともなさなかつたのである。それは私はせめて幼児期だけ位は子供が自然に發達するまゝにまかせて、あまり人爲的に細工を施すことに賛成しなかつたからである。然し只彼の環境をなるべく豊富にするにとだけは多少考へて居たに過ぎなかつたのである。

## ◇

今年の七月の終りから八月の初めにかけて、私は講習に出かけて二週間ばかり留守にした。その旅行に出かける迄は、子供は文字に就て何等の興味も無く又知識も無かつたのであるが、旅行から歸つて間もない頃の或日の夕食後に例の文字の書いてある板を出して來て。何やら云ひ乍ら一心に併べながら何か考へ考へして居つた。そしてその併べたのを見たら、ヤマカタトシヨとしてあつたから、私は「とし子さんは字を知つてゐるの」と聞いたたら「知つてゐるよ」と答へ「それは何と云ふの」と聞いたたら、その文字の如く讀み得たのである。そして「まだ他にも知つてゐるのがあ

るの」と聞いたたら、他にもまだ十二三の文字を拾ひ出したのである。そしてその中には明瞭に覺えてゐるものもあり、まだ多少あやふやのもあつた。そこで私は誰に習つたかを聞いて見たが、それを誰れからと明瞭にはなし得なかつたけれども、近所の小學校の一二年に行つて居る子供が二三人と女學校の一年に行つて居る子とが毎日遊びに來て居り何かの遊戯の材料にその積木を出して來た時に、讀んで聞かせたり教へたりしたものらしかつた。それ以來文字を覺えることに興味を持つて來て、私が新聞でも讀んでゐる時に、それを見て廣告等に出て居る文字の中から、自分の知つて居る文字を見つけ出せば得意になつてそれを讀んだり又積木を出して來ては、お友達の名前をならべたり、品物の名をならべたりして、其間に解らない所は一つづゝ聞いて行つて、何時とはなしに、八月の終頃までには、ほど片假名を覺えてしまつた。この間に於ても彼の周圍は決して積極的には教へやうとしなかつたし、彼も亦そのために決して負擔を感じはしなかつたと思ふ。かけつこをしたり、土いぢりをしたり、でたための樂書をするのと同じ心持

で覺えて行つたものである。彼自身にとつては、遊戯をするのと字を覺えるのとは同じ心持ちであつたことと思ふ。否字を覺えることも遊戯の一種に過ぎなかつたのである。

◇

この積木の板を併べることは、九月の終頃まで續いたが、それから後は板を出すことをしないで、これ迄繪を見て楽しんで、それを切り抜いたりするために與へて置いた、コドモノクニ、ミソラ、コドモアサヒ等の片側名で書いてある部分を読むことを初めた。然し讀むと云つても只一字づゝを拾ひ讀みするだけで、その意味を取ることには出来なく。又取らうともしなかつた。只一字づゝをきれ〜に讀み得ればそれで満足して居つたのである。然し雜誌を讀むやうになれば濁音や半濁音の文字が多く出て来るから、自然それ等に就ても注意する様になり、又何時とはなしに覺えて行つた。かう云ふことを繰越しやつて居る中に、幾分文章としての意味のとれる所も出来てきて、送り字や、拗音仄音等の讀み方やつてふ〜（蝶々）やうに（様に）等の

私の子供の字を覺えた話

如き文字通りに發音しないものゝ讀み方に就てもいくらかづゝ讀めるやうになつて來、最近に於ては若干の漢字と平假名とを讀み得るやうになつて來た。而してこゝ迄來るのにもやはり遊戯の一種としてそれを覺えて行つたことは先にも述べた積木によつて覺えて行つた場合と變りないのである。

◇

私は兼てから、學習と遊戯との關係に就て、それが同じ心持ちで兒童の生活に取り入れられることが最も自然であり且つ最も力強く確實であることを信じて居つた一人で、我が附屬小學校の第三部に於てはさう云ふことも一つの研究問題となつて居つたのである。學習することは即ち遊戯することであり、遊戯することは即ち學習することでありと思ふ。云ひ換へれば小學校の低學年の兒童にあつては學習することと遊戯することとは、そこに何等の差別なしに、親しみ易い氣持ちを以て彼等の生活を形造つて行きたいと思ふ。學習と云ふことを、特別な、勉強するんだ！と云つたやうな何か張りつめた氣持ちですることは、大きく

なつてからならば兎も角、小さい兒童にとつては、一概に有效なる方法だとは云へないのである。

以上のやうな意味に於て、私は日々兒童を導いて行かうとして苦心をして居つたのであるが、學校教育に於ては、學級組織の上から、及び教科課程の上から、どうもそれが工合よく行かなかつたのであるが、家庭に於て私の長女が字を覺えて行つたのを見た時、それが最も自然的に行はれ

て居ることを知り、私は教授方法改善の上に大なる暗示を得たやうな氣がしたのである。そして又この事によつて、所謂早教育なるものゝ意義やその可否等に就ても考へさせられたのである。然し私は茲でそれを述べやうとは思はぬ只かう云ふ事から色々な暗示を受けたと云ふことを表明してこの稿を結ぼうと思ふ。

## 小兒衛生

### 「子供の姿勢に注意なす」

醫學士 岡田道一

子供の姿勢といふことは極く大事なことです、殊にそれは幼兒の中から氣をつけねばならないことであります。

子供をお湯に入れた際又は裸にして空氣浴をさせる場合に子供の身體を時々綿密に検査することをお勧めいたします。

す、差當り姿勢や運動や緊張してゐるかどうか、或は弛んでゐるか注意をなす。習慣に適しまして子供の立派な姿勢や運動の生々したこと又持續に耐ゆる事とは恐らく體重の重いといふことよりも健康の一大確實な徴候であります。